



©LPGA

# 攻めるゴルフを貫き ファンの方を魅了できる プロになりたい。

**鈴木 愛プロ** 1994年5月9日生まれ。徳島県出身。倉吉北高(鳥取)を卒業した2013年7月にプロテスト合格。2014年9月のメジャー大会「日本女子プロ選手権コニカミノルタ杯」を大会最年少の「20歳128日」で制し、ツアー初優勝を飾る。その後も「大王製紙エリアルレディス」2位など、5度のトップ10入りを果たし、賞金ランク13位と躍進した。正確なショットを武器に、2015年も大活躍が期待されている。

——プロ2年目の昨シーズンは大ブレイクでしたね。  
 できすぎかなとも思います。メジャー大会でツアー初優勝できるなんて想像もしていなかったの、最初は私でいいのかなという感じでしたね。  
 ただ、優勝後も予選落ちは一度もなかったし、優勝争いも経験できました。成長したことを実感できる1年でした。

——9月の「日本女子プロ選手権コニカミノルタ杯」でツアー初優勝。改めて振り返ってもらえますか。  
 前年の最終プロテストの会場でもあった美奈木ゴルフ倶楽部は、すごく好きなコースなんです。ただ、プロテストは最終日の上がり3ホールがボギー、ボギー、ダブルボギー。2打差の2位だったので、10位以内を目標にリベンジしたいと思っていました。

——勝因は何でしょう。  
 アプローチですね。徹底的に練習してきたオフの成果を出せたと思います。  
 実は、これまではフェースを開くのが怖くて、ボールを上げるのがすごく苦手でした。でも昨年まで転がしばかりだったグリーン周りの引き出しが増えて、グリーンを外しても慌てなくなりました。

——印象に残るアプローチはありますか。  
 首位でスタートした3日目の15番パー3のチップインバーディですね。ティーショットはグリーン奥のラフで、打つてはいけないところでした。しかも、ピンまで12〜13ヤード、カップは傾斜のきつところの途中に切つてあるし、ライは逆目……どうしようかと思いました。  
 でも、そんな難しい状況で、思い切りフェースを開いてロブを打つことができました。あれで3日目を耐えることができたし、もしかしたら勝てるかなと思いました。

——今年はどんな1年にしたいですか。  
 昨年は、メジャー大会の優勝でいきなり3年間の複数年シードを取ることができました。それによって気が抜けてしまうのが一番怖いので、開幕までにしっかりと新しい目標を立てるつもりです。

**My Style**  
 苦手を得意にした練習方法。「楽しむことが一番の近道だった」  
 鈴木プロの得意クラブは、パター。その理由は「ボールがカップインする時の「コン」と響く音が好き」だからだという。「それを聞きたくて練習していたら、パターが好きになりました」。昨シーズンの平均パット数は1.7723で6位。かつては苦手だったパットが躍進を支えた。練習に取り入れた遊び心——やはり「好きになること」が上達の一番の近道なのだ。

テレビのプロゴルフ中継で表示される風向・風速データ  
 日本ユニシスは(一社)日本ゴルフツアー機構、(一社)日本女子プロゴルフ協会のスコアリングシステムを支援。当社のウインドステイクシステムで計測した風向・風速データをテレビ局に提供しています。

——最後に、ゴルフファンにメッセージをお願いします。  
 大勢の方の前でプレーするのは大好きです。見てもらえないと気持ちも盛り上がりません。いつも笑顔でプレーし、攻めるゴルフで、応援したいと思われる選手になりたいと思っています。